

木造聖観音菩薩立像(齡延寺) 1 軀

木造聖観音菩薩立像

もくぞうしょうかんのんぼさつりゅうぞう

分野／部門

有形文化財／美術工芸品[彫刻]

所有者

宗教法人 齡延寺(れいえんじ)

所在地

大阪市天王寺区生玉町

紹介

法量：像高 71.0cm



観音堂の本尊像で、伝来の経過は不明だが、聖徳太子作と伝承される。

当初は彩色像であったと思われるが、現状は素地を呈する。通規の像容の聖観音像である。木心は背面にはずし、頭から足ホゾまで一木から彫出し、内割り(うちぐり)はない。

両腕はともに前膊(ぜんはく)半ばから別材を寄せる。両足首先も別材である。山形の宝冠、天冠台は根幹材から彫出する。彫眼像である。

上品な表情、浅い彫り口の衣文、浅い体奥が特徴であり、定朝様(じょうちょうよう)の影響を示す。制作年代は平安時代後期と考えられる。